

2023年12月19日

株式会社高島屋

第34回（2023年度）タカシマヤ文化基金 受賞者・助成先決定

2023年11月21日に行われた公益信託タカシマヤ文化基金運営委員会において、第34回（2023年度）タカシマヤ美術賞の受賞者および助成団体が下記のとおり決定いたしました。

■ タカシマヤ美術賞（助成金 各200万円）：3名

- 藤原 彩人（ふじわら・あやと）さん〈彫刻〉
- 澤谷 由子（さわや・ゆうこ）さん〈陶芸〉
- 百瀬 文（ももせ・あや）さん〈現代美術〉

■ 団体助成（助成金 3団体で180万円）：3団体

- 大分県立美術館
（公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団）
所在地：大分県大分市
- 豊田市美術館
所在地：愛知県豊田市
- 練馬区立美術館（公益財団法人練馬区文化振興協会）
所在地：東京都練馬区

タカシマヤ文化基金について

高島屋は、1909年に広く一般の方に美術品を紹介する「現代名家百幅画会」を開催、1911年に美術部を創設するなど、人々の暮らしの中に美と文化を提供し続けてきました。そのような歴史と伝統のもと、1990年に公益信託タカシマヤ文化基金を設立、新鋭作家や美術文化の保存・発掘・振興に寄与する団体などへの助成を行っています。基金は専門家からなる運営委員会によって運営され、高島屋はオブザーバーとしての役割を担っています。

新鋭作家に対する賞（タカシマヤ美術賞）は、1作品への賞ではなく、その作家のこれ（までの活動と将来性から選考するものとなっています。毎年、「タカシマヤ美術賞」として作家には一人200万円、団体に対しては各回総額200万円を上限とした助成を行っております。

第1回～第5回は「新鋭作家奨励賞」、第6回以降は「タカシマヤ美術賞」として昨年度33回を迎え、これまでの受賞作家は91作家、助成団体はのべ72団体に達しました。

※贈呈式は2024年1月22日（月）に開催致します。

■タカシマヤ美術賞（助成金 各 200 万円）

○藤原 彩人（ふじわら・あやと）さん〈彫刻〉

- ◆栃木県益子で陶芸家の父のもとに生まれ、幼いころから慣れ親しんだ技法で人体彫刻を制作。等身大のスケールと色彩、群像表現は埴輪などアルカイックで悠久の時間を越えたものを思わせ、かつ人為的に属す過剰さもあり彫刻としてのオリジナリティを感じさせる。

1975 年京都府生まれ栃木県出身。2001 年東京藝術大学美術学部彫刻科卒、2003 年同大学大学院美術研究科彫刻専攻修了、2007 年から 1 年間文化庁新進芸術家海外研修制度により英国ロンドンに滞在。2021 年第 15 回宇都宮エスペール賞受賞、2021 年笠間陶芸大賞展（作品名「像化」入選/茨城県陶芸美術館）。

【主な展覧会・その他活動】

個展

- ・2002 年第一回アートコンペ「space Battle 2001」アート倉庫受賞展
Cozy Space～僕たちの居場所を探して～ / ギャラリーアート倉庫（東京）
- ・2021 年「軸と周囲—姿としての釣り合い—」Gallery21yo-j（東京）
- ・2023 年「第 15 回・宇都宮エスペール賞 藤原彩人展 像化—構造を施す捻り物—」
宇都宮美術館（栃木）

グループ展

- ・2017 年現代美術実験展示「パースペクティヴ（1）」インターメディアテク（東京）
- ・2022 年第 10 回 AGAIN-ST 展「ルーツ&ツール—虚材と教材—」
武蔵野美術大学大学美術館（東京）



像化—Planets on The Planet—01 2023 年
photo:柳場大



像化/台化—軸と周囲—01～09
2021-2023 年 photo:柳場大



藤原 彩人さん

○澤谷 由子（さわや・ゆうこ）さん〈陶芸〉

◆活動拠点とする九谷の細密赤絵の伝統や、焼き物の古典的な加飾技法のイッチンをルーツとしながら、陶芸の手法で模様を視覚的に際立たせているところに造形表現の特徴がある。独創的な幾何学パターンを器肌から極端に突出させ単色のグラデーションで表現したり素材の質感の生かし方などは作家の独創であり、おのずと現代の感性が現出している。

1989年秋田県生まれ。2012年岩手大学教育学部芸術文化課程造形コース（美術）卒、2014年上越教育大学大学院学校教育研究科教科・領域教育専攻芸術系コース修了後、金沢卯辰山工芸工房に入所し2017年修了。現在石川県能美市にて制作。

2016年「平成27年度岩手県美術選奨」受賞、2022年「第16回パラミタ陶芸大賞展」大賞。

【主な展覧会・その他活動】

個展

- ・2016年「澤谷由子展 雪糸紡」Parque（東京）
- ・2021年「澤谷由子展-Her patterns for Solemnity-」ギャラリー器館（京都）
- ・2023年「澤谷由子作品展」寺田美術（東京）

グループ展

- ・2014年「第30回クラフトフェア松本」あがたの森公園（長野）
- ・2022年「塚原梢 澤谷由子 二人展綾あわせ」art space morgenrot（東京）
- ・2023年「クロヤギシロヤギ通信」MtK Contemporary Art（京都）



露絲紡

2023年/h6.0×Φ20.6 cm

photo:岡村喜知郎



露絲紡

2022年/h7.0×Φ31.3 cm

photo:岡村喜知郎



澤谷 由子さん

○百瀬 文 (ももせ・あや) さん <現代美術>

◆映像を中心にパフォーマンス、インスタレーションなど発表形式の幅を広げている。ジェンダーやセクシュアリティの問題に積極的に取り組んでおり、テーマは身近なもの、社会問題、神話など3本ほど柱がある。展覧会への招待に応じて少しずつ展開させながら新作に取り組む。この幅広さと新しいことに対する柔軟性から将来の発展性を感じさせる。

1988年東京都生まれ。2011年武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒、2013年同大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。現在東京都にて制作・活動を行う。

2016年ACC日米芸術交流プログラム/ブランシェット・ロックフェラー奨学基金を受けニューヨークに滞在し制作。またイム・フンスンと共同制作した『交換日記』が全州国際映画祭に正式招待されるなど国内外で活動を行っている。

【主な展覧会・その他活動】

個展

- ・2014年「サンプルボイス」横浜美術館アートギャラリー1 (神奈川)
- ・2018年「Borrowing the Other Eye」ESPACE DIAPHANES (ベルリン、ドイツ)
- ・2022年「百瀬文口を寄せる」十和田市現代美術館 (青森) など

グループ展

- ・2015年「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋日本と韓国の作家たち」国立新美術館 (東京) 巡回「Artist File 2015 Next Doors: Contemporary Art in Japan and Korea」韓国国立現代美術館 果川館 (韓国)

パフォーマンス

- ・2022年「クローラー」(国際芸術祭あいち 2022) 愛知県芸術劇場小ホール (愛知)

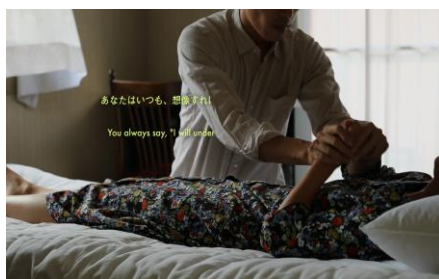
上映

- ・2020年「萌えいずる声—百瀬文《聞こえない木下さんに聞きたいいくつかのこと》」上映+シンポジウム 京都国立近代美術館 (京都)



Jokanaan

2019年 photo: ToLoLo studio



Social Dance

2019年



百瀬 文さん

■団体助成（助成金 3 団体で 180 万円）

○大分県立美術館

（公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団）

助成内容

「吉村益信の資料整理、保存環境の整備、目録編成、活用促進」

（所在地：大分県大分市）



公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団は、大分県立総合文化センター及び大分県立美術館を拠点として県民の幅広い要望に応えられる多様な文化事業やスポーツの振興に関する事業を行っています。当館では大分県出身の美術家吉村益信（1932～2011）没後、神奈川県秦野市にあるアトリエ兼住居に遺された作品の一部と資料の寄託を受けています。これらは1950年代後半から2000年頃までの吉村の制作活動全般に関わるもので平面・立体・パフォーマンスと多岐にわたり、改めて点検・整理や保存環境の整備が必要とされます。

また吉村は60年代のアートシーンを彩る多くの美術家と関わり複数のグループ活動に横断的に参加していることから、同時代の美術動向や周辺作家を調査する上で今回の活動は貴重なアーカイブ構築に繋がるものと考えます。

今後具体的には、①資料の整理・保存環境の整備 ②目録編成と活用等の活動に、助成金を活用していきます。（大分県立美術館）

○豊田市美術館

助成内容

「山田光春のアトリエに残された作品
及び資料の撮影・調査・分類・目録（記録集）作成」

（所在地：愛知県豊田市）



photo:増田好郎

豊田市美術館は19世紀後半から現代までの美術・デザインや工芸のコレクションを有する美術館として1995年に開館。鑑賞者一人ひとりが作品と対話し作品との関係を作っていく場となることを目指し、コレクションの形成および同時代の作家の展覧会やコミッションワーク、市民と共に歩む教育普及活動等を展開してきました。当館では愛知県豊田市出身の画家山田光春（1912～1981）のアトリエに残された膨大な作品と資料の調査・目録作成に今後着手する予定です。山田光春は画家、美術教育者そして前衛画家・瑛九研究の第一人者であり、瑛九との長年に渡る交友および瑛九研究に関する膨大な資料や書簡を残していますが初見の作品や手つかずの資料がまだ残されており、これらの資料には瑛九研究のみならず美術界や美術教育に繋がる貴重な情報も含まれ早急に調査を進めることが必要です。

今後具体的には、①山田光春作品の撮影・採寸・状態調査と記録、②その他資料の撮影・調査・分類・記録・目録作成等の活動に、助成金を活用していきます。

（豊田市美術館）

○練馬区立美術館（公益財団法人練馬区文化振興協会）

助成内容

「野見山暁治展開催に向けた寄贈作品の
調査・修復・デジタル化とアーカイブ公開」

（所在地：東京都練馬区）



公益財団法人練馬区文化振興協会は、豊かな区民文化の創造と多様な文化の発展に寄与することを目的に1982年に設立されました。当協会が管理運営する練馬区立美術館は1985年に開館し、日本の近現代美術を中心とした企画展を開催するとともに、練馬にゆかりのある作家の作品をはじめとした作品の収集や調査研究を行っています。当館では練馬区に長く在住しアトリエを構えた野見山暁治（1920～2023）の作品を開館準備期間中より収集しており、作家本人より2022年に寄贈を受けた59点を併せ計112点を収蔵しています。野見山暁治は福岡県の炭鉱経営者の家庭に生まれた出自や戦争経験から社会に鋭いまなざしを向けつつ、パリ留学を経て具象と抽象の境界線にある絵画表現を模索し亡くなるまで旺盛な制作活動を続けました。

今後具体的には、①作品の調査・修復 ②デジタル化と公開を目指したアーカイブ等の活動に助成金を活用していきます。

2024年10月6日（日）～12月25日（水）「追悼 野見山暁治（仮）」開催予定。

（練馬区立美術館）

以 上